



日時	2025年6月28日17:30				試合形式	90分	
会場	STADE SAINTE GERMAINE				ピッチ状態	天然芝	
日本代表			2	1 前半 0 1 後半 0	0	フランス代表	
後半	前半		チーム合計			前半	後半
9	7	16	シュート			5	3
2	1	3	CK			3	2
3	4	7	FK			8	6
1	1	2	オフサイド			2	2
165	148	313	パス数			511	189
4	3	7	クロス数			7	1
0	0	0	PK			0	0

【日本】

【フランス】



【得点経過】

前半

19分[日本]横井のFKを松野がヘディングで合わせてゴール。

後半

59分[日本]下鶴がドリブルでDF2人をおかし、ゴール。

【交代】

後半

5 4分[フランス]	IN NO.14	⇔	OUT NO.11
	IN NO.13	⇔	OUT NO.10
	IN NO.12	⇔	OUT NO.3
5 7分[日本]	IN 奥田	⇔	OUT 犬塚
	IN 幾島	⇔	OUT 松野
8 3分[フランス]	IN NO.15	⇔	OUT NO.7
9 0分[日本]	IN 梅村	⇔	OUT 奥田
	IN 福原	⇔	OUT 武田

ゲームコンセプト

全員攻撃/全員守備、良い守備から攻撃へ、90分 total の戦い

攻撃コンセプト

- ・中央突破(2人はDF間突破+3人コンビネーション)
- ・サイド崩し(ソロ)(コンビネーション)(ニアゾーン)
→ニア・プルバック・ファー
- ・ビルドアップ
→少ないタッチ+パススピード(サイドチェンジ・意図的な緩急)+サポート

守備コンセプト

- ・1 vs 1 で絶対に負けない
- ・前線、中盤の守備、ゴール前の守備 (PAに入らない・2ブロックコントロール)
- ・クロス対応 (同一視・人をつかまえる・ボールに寄せる・GKと連携)
- ・プレスバック

切り替え

- ・【守→攻】カウンター、1タッチプレー、直線(逆サイド)に飛び出す、インターセプトパス
- ・【攻→守】状況に応じ「ゴールを守る」が優先

ゲーム内容

気温 33 度に加え、ピッチコンディションも良好とは言えない中で行われたデイゲーム。厳しい環境のなか、

日本代表は見事な集中力と組織力を発揮し、フランス代表を 2-0 でトした。

前半、日本代表はコンパクトな陣形を保ちながら、相手の動きに合わせてスライドし、的確なプレッシャーをかけ続けた。フランス代表は自陣でボールを保持しながら攻撃の糸口を探ったが、日本の連動した守備によりビルドアップを封じ込められた。

試合が動いたのは前半 19 分。吉川のくさびのパスを受けた犬塚がファウルをもらい、フリーキックを獲得。横井のキックを松野がヘディングで合わせ、日本が先制点を奪った。

さらに前半 29 分には、下鶴が相手のビルドアップをパスカット。ドリブルで DF をかわし GK と 1 対 1 の場面を作ったが、シュートは惜しくもゴール右に外れた。

後半に入ると、日本はさらにアグレッシブな守備を展開。高い位置からのプレッシャーでボールを奪い、フランスゴールへと迫るシーンが増えた。

後半 59 分、横井が前線でボールを奪い、下鶴へパス。そのまま下鶴が DF2 人をかわして冷静に追加点を決めた。その後も 66 分には、小才が自陣からのビルドアップに抜け出しシュートを放つなど、攻撃の手を緩めなかったが、ゴールには至らず。奥田や幾島もゴール前でチャンスを作ったが、いずれも相手 GK の好セーブに阻まれた。守備面では、ゴール前での対応もチャレンジ&カバーを徹底。フランスに決定機をほとんど与えず、自由にシュートを打たせなかった。

試合終了の笛まで集中を切らすことなく、2-0 でタイムアップ。日本はシュート 16 本を放ち、フランスの 5 本を大きく上回るなど、スコア以上に内容で圧倒した一戦となった。